

# 民報 ゆうばり

# 原発事故、汚染拡大は危機的状況！

## 福島県内では、今なお14万人もの避難生活者が…

3月11日(火)、東日本大震災・福島原発事故から3年目を迎え、はまなす会館にて、「原発をなくす夕張の会」主催の『フクシマを忘れない！さよなら原発！夕張集会』が開催されました。この集会は3月8日「さよなら原発北海道集会」と連動し、北海道では泊原発を廃炉にすること、大間原発の建設をやめさせること、幌延を「核のゴミ」捨て場にさせないことが確認されました。



### 広がる連帯の輪

『原発をなくすいわき市民の会』が編修したDVD「絶望から希望へ」を参加者全員で見ました。

「…福島県内では、いまだに14万人もの方々が避難生活を余儀なくされ、家族そろ

つて住める家がない、展望がないという過酷な生活を送っています。震災関連死は1,660人余りで直接死を超えています。

### 原発をなくそう！

原発事故は収束どころか危機的状況が続いています。東電福島第一原発から放出された放射性物質で海

集会の終わりに、集会宣言が提案され、「…わたしたちは決してフクシマを忘れません！命と暮らしを守

の会」事務局のよびかけで、新規会員に2名の方が申込みをされました。

会では、北海道での100万人原発なくせ署名をすすめています。お手元に署名があれば、事務局まで届けていただ

### 再稼働狙う川内原発

原発再稼働に向けた原子力規制委員会の審査で、最も早く再稼働する可能性が高いとみられている九州電力川内(せんだい)原発(鹿児島県)。

しかし、再稼働審査では、大規模な火山噴火を「想定外」にしていることが赤旗日曜版編集部調べで判明しました。

東京大学火山予知研究センターの中田節也教授は、「巨大噴火は日本ではおよそ1万年に1回の割合で発生している。現在は確率的には、いつ巨大噴火が起きてでも不思議でない時期。川内原発の立地点は過去の巨大噴火で火砕流が到達していると考え

るため、そして、子ども達の未来を守るために全力を尽くします。

全国の仲間との連帯の輪をひろげよう！  
泊原発の再稼働を止めよう！  
大間原発の建設中止！

「絶望から希望へ」DVDお貸しします！

「福島原発事故、絶望から希望へ」(「原発をなくすいわき市民の会」製作)DVDは、「原発をなくす夕張の会」の事務局まで連絡ください。と

「原発をなくす夕張の会」事務局まで連絡ください。と

参加者からは「地震・火山大国で、事故が起きた時の避難計画すらもとみにない日本。国民の犠牲を前提にする原発はもうやめるべき」との声が上がっていました。

「原発をなくす夕張の会」事務局より紹介されました。

### がんばる共産党！

いわき市から福島第一原発にかけて、労働者の「危険手当不払い」の実態をふまえ、「危険手当を出せ」と

### 新規会員二名が

「原発をなくす夕張の会」事務局まで連絡ください。と

# 「地域で支える認知症」学習会開催 「ゆうばり再生市民会議」出前講座

15 日、ゆうばり再生市民会議は「地域で支える認知症学習会」を開催し 20 名が参加しました。

主催者を代表して沢井俊和さんが「夕張の人口が 1 万人を割り、その一方で認知症にかかる人の割合が増加している。地域での支えあいが必要

となっているため、この学習会を計画した」と取り組みの意義を話しました。

学習会は市の保健福祉課の芝木晴美さんを講師に、国の制度の変更や、夕張においてどんな問題があるかを資料を使って丁寧に説明されました。夕張は高齢化率が全国平均 24.2% を大きく上回り 46.4%、75 歳以上の方が 2681 人、人口の 27.4%。

さらに、介護認定を受けている 1236 人中、日常生活に多

少の支援を必要とする介護度 Ⅱ 以上の人が 821 人にのぼることが示されました。

また、認知症で一人暮らしの方が地域の町内会、隣人、民生委員、訪問介護など連携した取り組みで助け

られている、これをいっそう強めなければならぬと強調されました。



## 「国際女性デー」夕張集会開催



3 月 8 日、「国際女性デー」夕張集会が開催されました。

最初に交際女性データ張集会実行委員長の沓澤里美さんより開会のあいさつがありました。

次に、来賓として出席した、くまがい桂子市議が夕張市の財政再生計画の変更点として、各集会施設の水道・光熱費の基本料金部分がようやく予算化されたことを報告し、「これからも私たち市民が声をあげ、暮らしを守っていくために行動しましょう」とあいさつを締めくくりました。

第一部は、一般社団法人らぶらすの安齊尚朋さんから、会場(旧夕張小学校の職員室)を使った「コミュニティカフェ」がオープンするお話。さらに、旧体育館で自然エネルギーを使つての、チコリとホワイトアスパラの生産を見学しました。地域のお年寄りや障害者の皆さんを含めて、だれもが働ける、利用できる～そんな素敵な施設にする予定であることが紹介されました。

第二部は、ケアマネジャーの三島京子さんの講演で、介護保険の今後の情報と市内の状況を学習。今後、政府の介護サービスの切り捨てによって、介護難民が増えていきそうな現状にドッキリ！ 介護予防・生活習慣病予防の大切さを痛感しました。



## 「国会かけある記」

日本共産党参議院議員

大門 実紀史

「はちきん」

三月十五日の昼間は、吉良よし子参院議員(党ブラック企業対策チーム)と札幌市内でブラック企業問題の調査をおこないました。事業所の指導監督業務にたずさわる方々や労働者から現場の法令違反の実態をうかがいました。

夜は調査の報告もかねて、共産党や民青同盟などが主催する「ブラック企業・雇用問題を考えるシンポジウム」に吉良さんと一緒に参加しました。川村雅則北海学園准教授、木村俊二札幌地区労連事務局長がブラック企業の基本的な問題や北海道の実態をお話して下さいました。真下紀子道議も 道議会での質問などを報告し会場を沸かせました。

またコンビニやレストランの全国チェーン店ではたらく若者たちからは残業代をカットされた実例などが報告されました。パワハラ・セクハラが横行する M 病院で裁判に訴えた勇氣ある女性の報告には胸がつまりました。せっかくながら吉良さんが北海道まで来てくれたので、わたしは吉良さんの後見人に徹して、吉良さんにできるだけ話してもらおうようにしました。吉良さんのパワフルで人をひきつける国会報告に会場は大喜び。吉良さん出身の高知県では、吉良さんのように活発で勝ち気な女性のことを「はちきん」というそうです。

終了後、吉良さんがわたしに「みなさんに握手したいです」というので、いっしょに出口に走り出しました。質問準備をかかえながらの北海道入りで疲れているはずなのに、勝ち気なだけでなく心のやさしい女性だともいえました。